

2022年度(令和4年度)学校評価自己評価表

誠之中学校区	校番37	福山市立 曙 小学校
最終更新日		2022年(令和4年)4月1日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力	主体性
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中で各学校とも様々な工夫をして教育を進めている。 ・自己肯定感や自己効力感を伸ばしてほしい。 ・IT化が進んでいくので、トラブル対策も含めて、子どもの主体的な学びが進むよう取り組んでほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域から学び、理解し、つながろうとしている子どもが増えている。 ・相手意識を持った行動が不十分。 ・目的を明確に持ち主体的に学ぶまでには至っていない。 ・長欠児童生徒の割合が高い。 	21世紀型“スキル&倫理観” めざす子ども像(義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	思考力・判断力 表現力 自主・共生 自らに誇りを持ち、夢と目標に向かって頑張る児童生徒 研究主題： 自ら考え学ぶ教育活動の創造 校区共通のSDGs：11住み続けられるまちづくり

III 自校

ミッション ㉠ ㉡ ㉢
㉠リエイティブ(突破力・発想力)で㉡ンダフル(不思議がいっぱいで素晴らしい)な児童の育成の図るため、㉢ノベーション(学びを問い直す)の推進

学校教育目標
夢と希望を燃やし続ける曙っ子の育成

現状
<児童生徒> 全国学力・標準学力テストが平均を下回る状況が続いており、学力が定着しているとは言えない。体力テストにおいては、向上している項目もあるが、継続して課題となっている項目も見られる。体を動かす楽しさを感じている児童、継続して努力している児童は少ない。不登校児童の総欠席数は少しずつ減少しているが、30日以上長期欠席者数は20名、その内、新規欠席者は12名であった。 <授業> 主体的対話的な学びのデザインによる授業づくりにより、問いの設定はできるようになってきているが、児童自らが課題解決計画を立てながら本当の意味で学びを楽しむ段階には至っていない。 <教職員> 退校時刻を意識した働き方、意識の変化が表れてきた。昨年度、時間外勤務時間が月45時間を超える教職員は、0であった。

育成する力	主体性			
21世紀型“スキル&倫理観”	知識・技能、思考力・判断力、表現力、自立・共生			
めざす子ども像(徒の姿)	育成する力(21世紀型スキル&倫理観)			
	主体性			
	知識・理解			
	思考力・判断力			
表現力				
自立・共生				
低学年	知りたい情報を人に聞く・本で調べるなどして収集することができる。 自ら課題を見つけ、事象を比較すること等を通して、課題を解決することができる。	自分の考えや意見を、わかりやすく伝えることができる。	自分の考えを持つことができる。 進んで集団生活を行い、地域に愛着を持つことができる。	
中学年	目的に応じて情報を工夫して収集し、情報を選んで活用することができる。	自ら課題を見つけ、事象を比較・分類すること等を通して、課題を解決することができる。	自分の考えや意見を、三角ロジックを活用してわかりやすく伝えることができる。	自分の考えを持ち、相手の気持ちを考えながら自己を表現することができる。
高学年	多様な視点から情報を収集し、知識と結びつけて活用することができる。	自ら課題を見つけ、事象を比較・関係付け・分類すること等を通して、協働して課題を解決することができる。	相手や目的に応じて自分の考えや意見を三角ロジックを活用して納得することができるように伝えることができる。	自分の考えを持ち、相手の気持ちを考えながら自己を表現し、互いの存在や立場を尊重しようとしている。 進んで集団生活を行い、地域に愛着を持つことができる。
研究	テーマ 「自ら学び、よりよい社会を考えようとする子どもの育成」 内容等 自ら問いを持ち、自ら考えたり選んだり決めたり、先生や友達、資料と対話し合う授業づくりを行う			
めざす授業の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・比較・関連等により問いたくなる状況をつくり、自ら問いを考え、問いの解決に向けて予想や計画を立て、考え、対話し合う授業(子どもが夢中になって学ぶ姿) ・自分やグループの考えをICTやシンキングツール等を活用してまとめ、対話し高めていく授業 ・単元を見通してつきたい力を明確にして行う計画的な評価 			

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 曙 小学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)				
							□指標に係る取組状況	70%以上評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	70%以上評価	達成評価	総合評価
4	学びの問い直し		継続	本気で自ら問い、考え、対話し合う児童の育成	課題解決に向けた計画をたて、児童自ら夢中になって学ぶ単元を1学期2つ以上、2学期2つ以上実施する。	学びが楽しい(分かる・できる、もっと知りたい・学びたい)と思える児童を90%以上にする。 (児童アンケート)								
					つきたい力を明確にした単元計画を立て、根拠を明確にした評価を実施する。	自己の学びを調整するふり返りの時間を仕組み、見取る観点を明確にした評価を行うことができている教職員を80%以上にする。 (教職員アンケート)								
4	長欠の未然防止	★	見直し	不登校未然防止と常識の問い直し	欠席状況の推移に留意し、家庭訪問による連携を密にし、組織的対応で粘り強く取り組む。	長欠者数を前年度比20%減(20人→16人)								
					個の興味関心に応じたカラフルーム運営により、長欠児童の未然防止をする。	新たな長欠者数を、5人以下にする。								
					多様な学びの場から、児童の見方や学び、壁となる学校の常識の問い直しに努める。	週ごとの記録を基に、月1回の校内支援委員会を確実に実施し児童の実態交流や指導方針について協議する。								

4	教職員の働き方改革	見直し	長時間勤務の改善に向けた時間管理・確保と教職員の意識改革	2週間ごと3回の定時退校日実施と18時までの退校励行 一人一人の業務改善の意識を高めるための時間管理の徹底と時間確保の工夫	時間外勤務時間が月45時間を超える教職員を0人、年360時間を超える教職員を10人以下にする。 授業づくり・事務処理を行う時間が確保されると感じる教職員を90%以上にする。(教職員アンケート)								
---	-----------	-----	------------------------------	--	---	--	--	--	--	--	--	--	--

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。